

やるJA横浜！SDGs

JA横浜

経営企画本部事業企画室

第一部



テーマ:こども・若者世代に向けた取組

JA横浜×次世代×SDGs

① JA横浜 子どもの未来支援助成

～子どもたちの今を支え未来をつくる～

JA横浜は、子どもの貧困という社会課題に向き合い活動する市民団体を応援しています。

<JA横浜独自プログラム>「子どもの未来支援助成」

多様で見えにくい子どもの貧困という社会課題から、
未来を担う子どもたちが安心して暮らせる社会づくりを目指すためのプログラムです。

<対象の活動分野>

令和5年度 総額200万円

☑ 学習支援活動

- ・無料塾、フリースクールなどの
子どもへの学習支援を行う市民活動
- ・外国につながりを持つ子どもへの
日本語・学習サポートなど

<対象の活動分野>

令和4年度 総額1,000万円

☑ 子ども食堂・地域食堂

☑ フードバンク

☑ 無料塾・居場所



JA横浜こどもの未来支援助成報告/交流会(R5.10.7)



活動助成した先の42団体のほか、行政や、関連団体など80人超が一堂に会し、交流を行いました。



子どもたちの未来を応援しよう!

助成総額 200万円

第2回 JA横浜 募集

子どもの未来支援助成

横浜市内には「子どもの貧困」という社会問題に向かい、学びの支援等に取り組んでいる市民団体が多くあります。多様で見えにくい貧困の状況に対して、市民同士の助け合いで子どもたちの「今」を支え、「未来」をつくる活動を応援します。

17時必着

募集期間 2023年11月20日(月)～12月15日(金)

【寄付団体】JA横浜

JA横浜は人と自然を大切に、社会の発展と豊かな暮らしを実現する地域に根ざした事業を展開しています。「食」と「農」を軸とする活動を通じて、人々の助け合いを育み、安心して暮らせる明るい社会づくりに取り組んでいます。

JA横浜「子どもの未来支援助成」では、市民活動を応援し、「子どもの未来」という社会課題の解決をめざします。

オンライン(Zoom)説明会開催日程

2023年

助成対象事業と助成額	1団体の助成上限金額
学習支援事業	20万円
助成総額	200万円

対象となる団体
横浜市内で、子どもの貧困課題に向かい活動している非営利団体

助成対象活動
無料塾、フリースクールなど子どもの学習支援活動
団体運営に係る費用(会費等)、人件費・雑費、講師の交流会や学習会等(※対象外)

対象となる経費の例
・教材費 ・文具費 ・賃借料 ・印刷製本費 ・物品購入費・レンタル料
・交通費 ・通信費 ・広報費 ・消耗品費など

開催目的

- ①情報共有の場づくり
- ②各支援団体の連携促進
- ③活動上の課題を共有すること

② SDGS/協同組合をテーマにした 行政・企業・学校等との連携



(1)小・中・高・大の学校へSDGS/協同組合をテーマにした出張講話/啓蒙活動

□大学での講義

・R5.4 大学ゼミで「都市型農協の存在意義とは」をテーマに事例報告

□市内高校にSDGsにかかる講演

・R4.9 2年生40名

・R4.12 1・2年生29名

・R5.12 1・2年生に講演予定

□市内中学校等に職業講話

・R5.6 3年生9名

・R6.2 1年生に職業講話予定

□市内小学校にSDGsにかかる講演

・R5.9 6年生26名

・R5.10 5年生70名

・R5.10 4年生29名



(2)中学生が主体的に学ぶ防災

□市内中学生が使用する防災教材の記事出稿

□横浜市と企業が主体のはまっ子防災プロジェクトへの協賛

□防災×農業にかかるYouTube動画の教材提供

この後、第二部では・・・

テーマ: **企業連携とフードロス削減に向けた取組**

テーマ: **企業連携と農業の課題解決に向けた取組**

について、JA横浜からの紹介と意見交換をさせていただきます

第二部



テーマ:企業連携とフードロス削減に向けた取組

JA横浜× 企業×『食』 ×SDGs

フードロス削減をテーマにした商品開発



やるJAんカレー

ふるふる

やるJAんらっきょう



(2022.10.14発売)



(2023.10.3発売)



(2023.11.3発売)

～『「もったいない」を「美味しい！」に』をコンセプトに～

当JAは、フードロス削減やSDGsへの取り組みとして、「地産地消の推進」「規格外農畜産物の活用」「市内農地(*)の活用」をテーマにした商品開発に取り組んでいます。

みつ症という生理障害によって販売できない横浜の梨“浜なし”が「もったいない」。

使っていない市内の農地(*)が「もったいない」。

そんな職員の思いから、JA横浜オリジナルSDGs商品を開発し新たな「美味しい」が誕生しました。

(*)農家が耕作できなくなった農地

やるJAんカレー

みんなが♡WAPPY!
やるJAん横浜!



商品情報

□発売開始日	2022年10月14日
□商品名	いとしのやるJAん横浜カレー やるJAん横浜ひきにくカレー
□内容量	180g(1人前)
□価格	398円(税込)

浜なしのフードロス削減をテーマに市内産の食材を使ったカレーを作りたいというJA職員の発想が出発点となり、開発された本品。

<原材料のこだわり>

- ・横浜市内産の豚肉や玉ねぎを使用！！
- ・豚肉は、横浜市の養豚農家が餌にこだわって生産するブランド肉！
- ・玉ねぎは、JA職員が市内の農地(*)を活用して生産(一部)！

横浜産農畜産物の旨味と、JA職員のアツい想いが、たっぴりと詰め込まれた一品です！！

(*)農家が耕作できなくなった農地

牛乳で作る簡単デザート「ふるふる」



商品情報

- 発売開始日 2023年10月3日
- 商品名 ふるふる(デザートベース)
- 内容量 150g(3人前)
- 価格 290円(税込)

□浜なし

浜なしとは、品種名ではなく横浜市内で生産される梨の総称です。
2015年に商標登録し、特長ある神奈川県産の農畜産物を登録するかながわブランドにも選ばれています。

□横浜メロン

横浜メロンは、品種名ではなく当JAが農業経営事業の一環として生産したメロンです。
農業経営事業とは、JAが農業経営モデルの構築と実証を行い収益性を見込める作物の栽培モデルを新たな担い手に事業を継承することを目指す取り組みです。

甘酢漬 やるJAん横浜！ふぞろいらっきょう



商品情報

- 発売開始日 2023年11月3日
- 商品名 甘酢漬やるJAん横浜！ふぞろいらっきょう
- 内容量 120g(約15～20粒)
- 価格 390円(税込)

横浜市内産のラッキョウを100%使用！！

原料のラッキョウは、JA横浜の農業経営事業と市内農家2戸が生産したものです。
農業経営事業での栽培には、JA職員のほか、
准組合員を対象にした「援農ボランティア」が携わっています。

本品は、JA横浜と正・准組合員の協同から生まれた一品です。

SDGsをテーマにした規格外野菜マルシェ



その名も『やるJAんマルシェ』 貴社内で開催できれば、社員の健康経営にも役立つかも！？

SDGS・フードロス为主题にした新しい直売スタイルで、規格外野菜を主軸商品としています。
「カタチ・大きさや色合いが違うだけで、新鮮で美味しい横浜野菜に変わりない！」
「消費されないなんて、もったいない。」そんな思いから実施しています。



<R4.11.19>
ピクニックパークイベント(新横浜公園)



<R4.12.10>
BALLPARK FANTASIA (横浜スタジアム)



<R5.2.4><R5.4.22>
無印良品港南台バース



<R5.5.27~28>
みなとみらい象の鼻パーク

<R5.8.5>
エコフルーツフェア
(三井アウトレットパーク横浜ベイサイド)



<R5.9.24>
磯子まつり(磯子センター前)



<R5.10.14>
ピクニックパークイベント
(新横浜公園)



地産地消の推進を目的にしたSNS戦略

地産地消の推進に向けたコラボ企画募集中 SDGs/フードロス



jayokohama.hamakko

フォローする

メッセージを送信

投稿945件

フォロワー6028人

フォロー中192人

JA横浜「ハマッ子」直売所

横浜市民必見

●カラダに嬉しい旬の献立

●#横浜野菜のお得な情報はお任せください

●FMyokohamaの最新情報をいち早くお届け

●フォローして @jayokohama.hamakko をつけたら、あなたの投稿もシェアされ

▼公式サイト・レシピ検索はコチラ▼

@ ja-yokohama.or.jp

主な投稿内容

- 農家紹介
- 旬な野菜を紹介
- 地元の飲食店紹介
- 直売所紹介
- 浜なしやシャインマスカットのプレゼント企画

JA横浜直売所情報



レシピ紹介



新商品紹介



プレゼントキャンペーン



第二部



テーマ: 企業連携と農業の課題解決に向けた取組

JA横浜 × 企業 × 『農』 × SDGs

① 農福連携事業の展開



JA横浜は、令和5年度から農福連携を開始しました。
(株)農協観光と連携し、農業分野での『生きがい』・『やりがい』を通じた障がい者の社会参画を進め、農家が抱える労働力不足などの課題解決に向けた持続可能な農業経営を目指しています。

② スマート農業にかかると企画開発

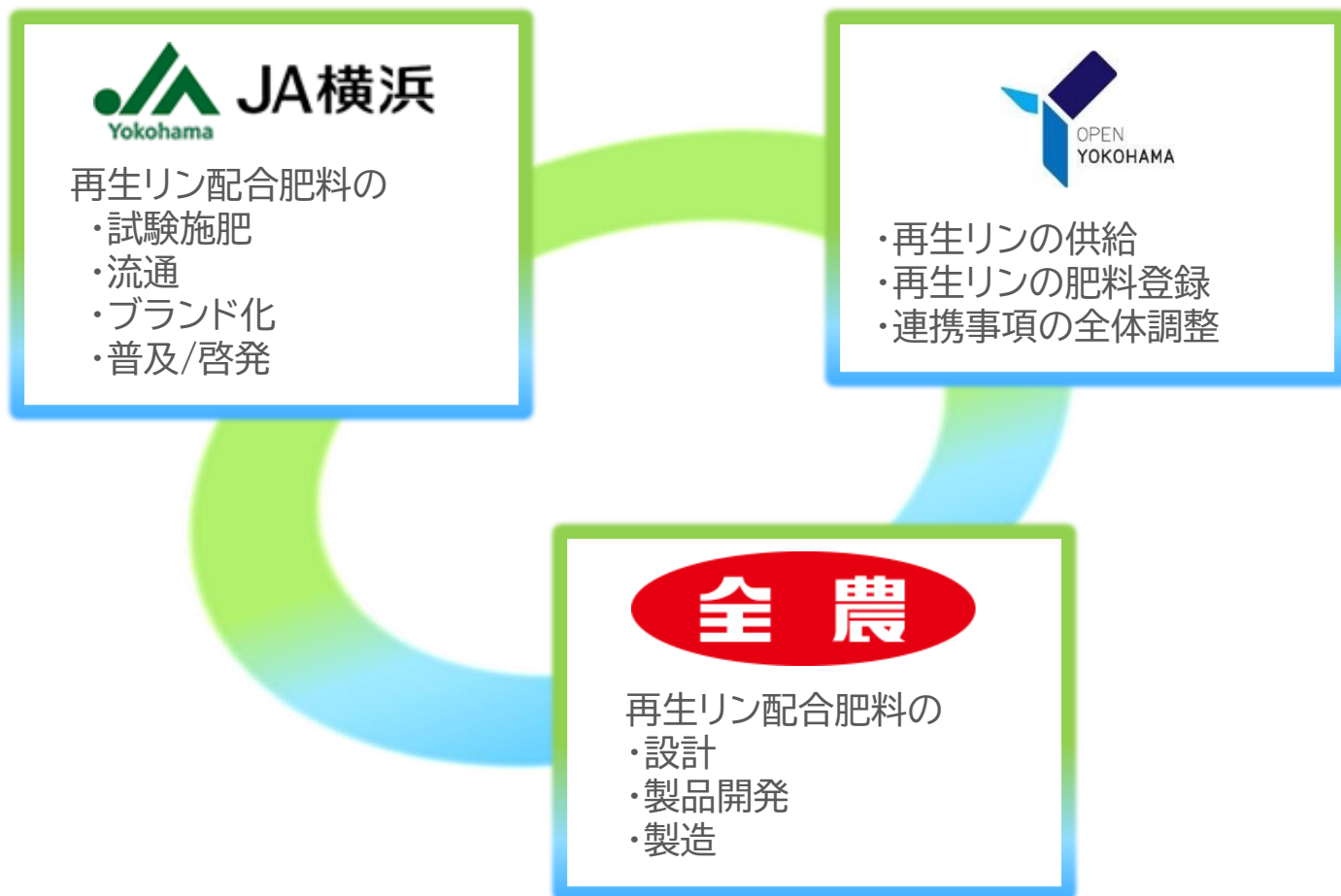
1. 自動走行ロボットとVRを用いた未来農園
2. 「わな」による鳥獣捕獲状況の遠隔監視
3. IOTセンサ機器を活用した実証実験



③ 廃棄食材を対象にした肥料化の研究

④ 下水再生リンの活用施策

横浜市と連携した中で、下水再生リンを活用した肥料の促進施策に取り組みます。



下水再生リンの肥料活用事業

横浜市の下水汚泥処理システムを活かして、下水汚泥から肥料の原料となるリンを回収することで肥料の国産化・安定供給に貢献します。横浜市は、下水処理の過程で発生する下水汚泥から肥料の原料となるリンを回収するという新たな循環型事業の開始を予定しています。

当JAは、横浜市と連携協定を締結し、回収したリンを活用した肥料の企画ブランディングや流通・販売を行います。